

令和3年度総合教育会議会議録

日 時 令和4年1月17日（月） 午前9時 開会

場 所 東近江市立愛東南小学校

出席者

市長	小椋 正清	副市長	南川 喜代和
教育長	藤田 善久	教育長職務代理者	青地 弘子
教育委員	沖田 行司	教育委員	篠原 玲子
教育委員	山本 一博	教育部長	大辻 利幸
教育部次長	中村 達夫	管理監(校務支援担当)	中西 美智代
教育審議員兼教育研究所長	宮居 伝	秘書課長	中堀 智之
学校教育課校務支援係長	横川 豊彦	学校教育課指導主事	平井 茂太
愛東南小学校長	東條 和徳	愛東南小学校教頭	小林 大輔
事務局			
管理監(教育総務担当)	小杉 一子	教育総務課長補佐	中野 里栄子

以上 18 名

開会

教育部長

皆さん、おはようございます。

本日は、大変お寒い中、令和3年度第2回総合教育会議に、お集まりいただきありがとうございます。

只今から、会議を始めさせていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます教育部長の大辻です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、はじめに小椋市長から、御挨拶をいただきます。市長よろしく願いします。

市長

皆さん、おはようございます。

今年度第2回目の総合教育会議を開催しましたところ、皆様には御多忙の中、朝早くからお集まりいただきありがとうございます。また、平素から教育行政の推進に格段の御尽力をいただいておりますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから2回目の新年を迎えました。この間、学校の一斉休業や三密の回避、ワクチン接種など様々な感染拡大防止対策を行ってまいりましたが、子どもたちは、学校での活動に制限が加えられながらも工夫を凝らし、形を変えながら様々なことに取り組んでくれています。

市としましても、地域の感染レベルの状況に応じて柔軟に対応しながら、児童生徒等の学びを保障する観点からも学校教育活動を継続しつつ、学校、家庭、地域が一体となって、できるだけ通常どおりの学習活動が行えるよう取り組んでまいりたいと考えております。

結びに、本日の会議では、「第2期東近江市教育振興基本計画（案）について」、そして「タブレット端末を活用した学習について」を協議していただくこととなっております。また、後ほど授業参観もしていただき、子どもたちの学習の様子を見ていただく予定であります。

限られた時間ではございますが、本日の会議が有意義なものとなりますよう皆様の御協力をお願いし、開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。

教育部長

ありがとうございました。

続きまして、藤田教育長から御挨拶をいただきます。

教育長よろしく申し上げます。

教育長

おはようございます。第2回目の総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。年末年始は大雪にみまわれまして、学校は年末であったり、土曜日であったりで、影響は少なかつたかなと思っておりますけれども、地域の皆さんのお力をお借りしながら、通学路の確保であるとか、そういったことに努めていただいたものでございます。

今、市長からお話がありましたコロナですが、現在、東近江市の児童生徒、教職員と学校関係者ということで、26人の感染者が出ております。保健所も大変業務がひっ迫してまして、関係者のPCR検査であったり、疫学調査であったりが、スムーズに行えない状況のようございまして、いったん感染がでますと、疫学調査で濃厚接触者がどうであるとか、あるいは関係の方のPCR検査の結果を待つということになりますと、4～5日かかるというようなことが実例となっております。そういった中で学校の運営も、特に教職員で、一人出ますとかなりの影響が出るということになっております。濃厚接触者の待機期間が14日から10日間に短縮されたのですが、教職員一人が感染しますと、職員室での両サイド、向かい側とかが少なくともPCR検査の対象になって参ります。そうすると、例えばこの愛東南小学校ぐらいの規模になりますと、とても授業が実施できないくらい、担任がほとんど欠けてしまうと、そういうことにもなりかねないというようなことございまして、今はPCRを受けないといけないとされた方については出勤を控えてもらっていますが、濃厚接触という部分での考え方を、もう少しきっちり区分して、念のためのPCRということでしたら、ちょっと出勤も考えていかないと、すぐに学校運営に支障をきたすという状況になっているので、しっかり議論をして進めてまいりたいと思っております。

大学入試共通テストに関連しましても大変な事件だったり、津波であったりということ、受験生にとっては落ち着いて試験に向かえないという環境になっているかなということ、心配をしているところでございます。

少し前の、大阪でのクリニック放火事件等も含めて、いろんなことの悩みを抱えた人たちへの支援というものも、かなりしっかりやっていく必要があるのかなというようなことを、感じているところでございます。ちょっと世の中が難しい時代を迎えているのかなと感じております。

新年を迎えて、教職員や教育委員会の職員に申し上げていることがございまして、去年ぐらいから私は電気自動車に関しまして、トヨタが電気自動車にあまり積極的ではないなというふうに思っていましたので、トヨタが世界の自動車をリードする部分から外れてしまうと、日本はどうなるのだろう、要するに工業力、技術立国という部分で言うと、かなりの部分でポジションを落とすのではないかなという心配をしております。

年末に日本も 2050 年カーボンニュートラルに取り組むということになりまして、トヨタも見直しをして、2030 年の電気自動車の生産台数をかなり増やしたわけですが、しかしながら、世の中は電気自動車産業をリードするのは、今の自動車産業ではなく、ソフトウェアを支配する会社がこれから支配するんだというようなことが言われております。今の子どもたちは自分たちが仕事に就く際には、ずいぶん違う環境になってしまうのだということが、本当にもう目の前に現実問題として迫ってきているなというふうに思っております。先日の教育講演会でもあったような話でございます。そういったことも含めて、教職員はしっかりこういったことも考えながら取り組んでいく必要があるんだろうという話をさせていただきました。トヨタはカーボンニュートラルに対して、電気自動車だけがカーボンニュートラルに近づく手立てではないと主張されています。私は、それは正しいと思っています。しかしながら、世界にはそこまでの発信ができていないなど。国としては、やっぱり政策として発信が必要なんだろうというふうに思ったりもしています。

そういったことを考えますと環境問題、エネルギー問題というのは、子どもたちに教える時にはより一層難しい政治色が出てまいります。難しい問題になるかなというふうに思っておりますので、ぜひ教職員にはこういった問題を正面から常に考えてほしいなあとこの話をさせていただいているところでございます。

今日は教育振興基本計画、大切なテーマについての議論をいただきます。これから子どもたちが先ほど言いましたように、世の中においてタブレットをはじめとした機器をどういうふうを活用する、あるいはそれによって、どういうふうに変化していくんだという事をしっかり捉える、そういうことが教育の一環であろうというふうに思っておりますので、課題を先送りすることなく、しっかりしていきたいなというふうに思っているということをお話させていただいて、開会の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育部長

ありがとうございました。

本日の出席者はお手元の座席表のとおりでございます。南川副市長にも御出席いただいております。本日の資料について確認させていただきます。

管理監（教育
総務担当）

（資料確認）

教育部長

それでは、議事に入らせていただきます。

進行につきましては、会議要綱第 4 条の規定により市長となりますが、同条の既定により、あらかじめ指名を受けていますので、私が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の総合教育会議では、二つの協議を予定しております。

1 つ目の協議事項として「第 2 期東近江市教育振興基本計画（案）について」、2 つ目は「タブレット端末を活用した学習について」を議題にしております。後ほど、授業参観もしていただき、子どもたちの学習の様子を見ていただこうと考えております。

本日は盛り沢山の内容となっておりますので、議事がスムーズに運びますよう皆様の御協力を

お願いします。

では、次第に従い進めさせていただきます。

まず、1つ目の議題であります「第2期東近江市教育振興基本計画（案）について」につきまして、教育総務課中野課長補佐が説明をいたします。

教育総務課
課長補佐

（第2期東近江市教育振興基本計画（案）について）

教育総務課長

ありがとうございました。それでは質疑応答に入りたいと思います。
本日は専門部会委員も出席しておりますので、まずはお一人ずつ、御意見、御質問等いただければと思います。それでは、青地委員からお願いします。

青地教育長職
務代理者

前もっていただきましたこのプランですけれども、ぱっと見た時に非常にわかりにくいところがあります。というのは、同じことの繰り返しがまた次のところにも出てくるということがありまして、もう少し整理ができないのかなと考えました。例えば、目次の部分を見れば、大きな流れはわかるんですが、例えばその部分から見たときに、（1）（2）とかいうところ、そういう文言が目次の中にはないものですから、見たときに捉えにくい。大まかにはわかるけれども具体的には、この項目にはどういうことが書かれていますか、ということが、（1）（2）のような形で入ってくると非常に見やすくなるかなということを考えていました。

市長

私も青地委員と同じこと思っていました。目次の重要性というのをもうちょっと。このことはどこに書いてあるかな、と目次を見てぱっとわからない。誰も言わなかったら、最後に軽く言わせてもらおうと思っていました。これ本当に重要です。ちょっとカバーから充実して欲しい。そうなるかと重複しているのに気がつく。おっしゃったようにもう少しさらに整理できるかなと思います。お願いします。

管理監（教育
総務担当）

目次をもう少し詳しくなるように、整理いたします。

教育部長

ありがとうございます。それでは、山本委員お願いします。

山本教育委員

ありがとうございます。事前にこういう冊子形式でもらっていたのですが、手元でバラバラにしました。どうしたかという現状と課題があって、それに対する施策が出てきているので、それを合わせて読みました。もう少し精査しないとガタガタになっているような気がします。もう一つは東近江らしさということで、教育資源の活用という、それが現状と課題に対する解決の手法というか、手段になるのかなと思いました。この五つの要素をどういう具合に解決の施策に反映しているかというところが感じられない。28、29 ページのところで、（2）だけ醸成なんです。他は全部、活用、活用、活用になっています。言葉の遊びみたいな事ですけど、ここも活用にしないと、統一感がないなと思いました。要はもう少し整理していただけるといいなと思います。

教育部長

ありがとうございます。恐らく青地委員と同様の御意見かと思いますが、課題の部分と施策の部分に分かれておりますので、見にくいという指摘と受け止めさせていただきます。それでは沖田委員をお願いします。

沖田教育委員

ふたつほど感じたこと。ひとつは学校教育でGIGAスクールとか、ICTの活用ということがありますが、一番重要なことは、人物教育、人間教育のコアをどの辺に置くかということですね。これは日本の教育全般に言われることではありますが、人材を作るような能力開発と同時に、東近江における人間教育というのは、これは道徳教育にも関係してきますが、その辺のコアになるものをしっかり認識しておくこと。もうひとつは幼小中教育との連携の推進、今9年制教育と言われてはいますが、幼稚園と小学校の連携を具体的にどのように展開していくのか。小学校5、6年と中学校の教育の連携を具体化というのが重要だと思います。小学校から、中学校に上がる時に落ちこぼれていく子どもが七五三と言われるように、終わりぐらいに増えてくる。3割が小学校で落ちこぼれて、5割が中学校で、高等学校になると7割ぐら이가課程がわからないと言われてはいます。そういう意味ではその連携をどう考えていくのかと。

一番重要なことは、現在の教育課題で、学校、家庭、地域の連携にもう少し重点を置いていただきたいと思います。小椋市長の話がありましたけれども、地域で育つということを考えたいですね。学校教育が上手くいくためには、家庭が教育機能を果たさないといけない。家庭そのものが教育機能を果たすためには、地域の教育力をどう取り戻していくかという。先ほどおっしゃったように、お祭りであるとか、地域の文化財に関わる教育だとか、地域、学校、家庭は同じ円の中に入っていると。そういう意味で家庭教育を支援する活動をもう少し。私も今、大学で教員養成をやっていますが、こういう家庭教育に力を入れるような大学の専門教育も必要だと思います。とりあえず家庭、学校、地域の関係性をどう捉えるのか、これはこれからの教育の要だと思います。以上です。

教育部長

ありがとうございます。今のことについて、宮居先生、コメントをお願いします。

教育審議員兼
教育研究所長

最初に一番大事だとおっしゃった幼小中連携のことで少しだけお話しします。32ページの一冊下の辺りに書いてありますが、例えばおっしゃったように、これまで保育園や幼稚園でやられていた教育を、小学校の教員がきちんと見られていないなど。どういう保育や教育をやられていたかを掴みきれていない。だから、小学校1年生に入った時に、もう一度、一番下の学年だからと、一からするような言葉で、すでに育ってきているのに、もう一回戻してしまっただけで、ということが指摘されてきました。そういう観点から、現在では幼稚園、保育園、幼児園のところでは、小学校に上がる最終5才児を小学校に入るアプローチ、その辺りにどのような視点を置くかということプログラムということで捉えて、この辺りまでは成長していますよと。それを小学校教員が意識すると同時に、小学校1年生のスタート時にスタートカリキュラムということで受け取って、意識化することが非常に大事だということで、幼小中連携事業という形でやっています。それを毎年少しずつ見直ししながら、幼小中連携推進事業という形でやっていって、それと、もうひとつは私自身が感じますのは、教員はそれを感じるためにやっぱり管理職なり、あるいは特別支援教育のコーディネーターの方な

り、生徒指導関係の方が保幼から小中まででつながるっていうのは非常に大事で、そうしないと、小は小、中は中という形になります。例えば中学校区、例えば2校あるところであれば、1校ずつではなくて2校と中学校がつながるとか、園とつながるとか、そういうところに意識を入れていくという取組が、かなり進んできていると思いますけれども、その辺りに視点がかなり不十分なのかなというのを正直感じています。

教育部長

ありがとうございます。それでは篠原委員からお願いします。

篠原教育委員

私も最初感じているのは、30ページの推進施策の1、2、3とあるのですが、その中のかっこの順番というのは、東近江市ではまず一番に学力の向上だという順番であげられているのだろうかというのがあって、みんなでこれをまず目指そうよというのが見えないかなと思います。今、お二人が言われたように、人づくり、地域とか、その周りの大人たちみんな教育を進める、作っていくということを目指すというのは、今は日本全体でそういう流れになってきていると思うので、今年度からコミュニティスクールというのは、2校で始まっているということで、そういう中でちょっと見えにくいかなというのがあって、もったいない感じがします。せっかくこれから進めていくということもあるので、ぜひもうちょっと地域との連携というか、おっしゃった通りだと思うんですけど、そういうのを盛り込んでいただきたいです。

26ページに「輝く未来東近江」をすごく目立つように書いていただいて、これを目指すのであれば、その基本目標のところを書いてある全部人づくりですね。人づくりというのを目標に上げるんだったら、やっていくことはもう少し皆さんにわかりやすい目標を上げていただいたほうが良いと思います。

教育部長

ありがとうございます。池元補佐、お願いします。地域の教育力の関係でコメントをお願いします。

篠原教育委員

ひとつはこの順番が優先的かどうか、一番力を入れて行くという順番で書かれているのかどうかっていうのを聞きたいです。

管理監（教育
総務担当）

こちらの体系につきまして、前回の第1回の総合教育会議でも御紹介をさせていただいた部分ではあるのですが、一番はやはり学力の向上ということで挙げております。大きな柱三つは子どもたちのこと、それから社会全体のこと、生涯のこと、という流れですが、それぞれの中の順番というのは、特に優先というような流れではないです。

市長

少しでもそれを頑張ろうという意志ですね。
もっと人間力を育てるとか、人として成長を考えた時に学力というのは2番目、3番目だから。順番で言うと、例えば2、3、1くらいの順番にすると、ちょっと威圧感がないんじゃないかなと思いますが。

教育部長

その辺はたぶん教育長の思いがだいぶ入っておりますので。
今までの各委員さんの意見を踏まえて、教育長、御意見をお願いします。

教育長

順番に書いていますと、この順のように見えますけれども、これは結構短期的な計画になっています。その中で今課題として捉える部分は何であるか、学力っていう部分が高いかなという思いの中で、こういう順番にさせていただいております。御意見についてもわからなくはないのですが、私としては、まずはここに軸足をしっかりおいてやっていきたいなど。もうひとつは、学力の向上ということが、単に学校の平均点をあげようという趣旨とは思ってないです。学校の基礎的な学習についていけないがために、学校自体を変えるという子達が少なくないです。

今、個に応じた学習ということで、習熟度別のクラス編成の中で、簡単な算数の部分も指導しているわけですが、今、本当にわからない子もいるわけです。丁寧に基礎的な所を教えられると子どもたちは分かったということで、学校に対して学習することの楽しさみたいなものを見出したり、そういうところをちゃんと身に付けておかないと、さっきおっしゃった中学校行って終わりだと、そういうような部分につながっているのかなって、そういう思いの中で、できるだけその部分を抑える。

平均点を上げるのであれば、中間層をあげれば平均が上がる。やはり生きていく上での力というものを身に付けさせるためには何かということで、学力という言い方が適切ではないかもしれない、そういうような思いの中でこう上げさせていただきました。

沖田教育委員

大学で最近の学生は読む力ができてない。同志社大学で、4年間で百冊ぐらいの本を読まそうという提案したんですけど、一番重要なことは、学力の基礎になるものはやっぱり国語力だと思うんですね。幼稚園でも、小学校でも読む力をしっかり身に付ければ、私は他の教科に必ずスライドしていくと。そういう意味で、共通の読む力をベースに置くって、昔は学校が始まる前に10分か20分か漢字の試験があったと記憶があるんですけど、そういう意味で数学とか算数とか理科とか他の科目もありますが、やはり読む習慣、読む楽しみをどう子どもたちが比較的早い時期に習得するかというところは重要だと思います。

もうひとつ、例えば、学校、家庭、地域との連携、キャリア教育は重なってきていますよね。地域の警察署とか消防署であるとか、地域の魚屋さんとか、子どもが地域について学ぶことを通して、家庭、学校、地域連携を図っていくという、そういう仕掛けを考えることも必要ではないのかと。それはどういう規定に従っていくのかってことですね。GIGA構想であるとか、今このタブレットありますけれども、基本的にはやっぱり読む力、それが情報を分析して、いらぬ情報は消していけるような判断につながっていくんじゃないかと。そういう意味で非常に今の話を伺って感じました。

教育部長

ありがとうございます。それでは副市長、御感想をお願いします。

副市長

気になるのは家庭学習の支援という言葉にとってもひっかかりまして、地域で子どもを育てるって言うけど、地域の人いろんな仕事をしている中で、よその子に関わることはできないと思う。結局はやっぱり子どもが学校できちんと育ててもらおう。自分で考えて、自分で行動を起こせるような教育という子どもを育てようというのは間違いないと思うので、そう言った部分で、もう少しその辺の人づくりという言葉が出て、先ほどの施策と人づくりの順番もありましたけど、基本方針は人づくりということで、3点の基本方針が出ているので、これ

に向けた施策の一つずつということで、まず学力の向上を目指すための、これも人づくりやという、そういう理解を行政の人間として、していたので、そうなんかなと思います。スポーツ少年団で子どもを40年見てきていると、もう今一番上は57歳になっていて、その子らをずっと見ていると、もう子どもも順番に大きく変わってきて、最近言わなくてもいいかと。こっちも年を取ってきたのかなっていう気になってきているんですけど、その辺の変化をしながらですが、やはり基本は子どもが自分で考えて何をしようっていうことを学校でまず教えてもらわないといけないのかなと。それと合わせて、親に対して保護者に対しての教育っていうのは誰がどうするのか、それも学校できちんとここまでうちがしますけど、あとはもう知りませんっていうぐらい突き放した言い方をする時期に来ているのではないかなと言うような気がしています。

教育部長

ありがとうございました。様々な御意見をいただきましたので、なかなかまとまりがつきにくいことと思います。最後に市長、皆さんの意見を踏まえてコメントいただければありがたいです。

市長

3月までもう少し時間がありますので、先ほど貴重な意見を委員さんからいただいたと思います。一つずつに、理由はあると思うんですけど、その意見を踏まえて、もう一度ちょっと準備して欲しいなあということをお願いしておきます。いくつか教えて欲しいんですけども、例えば子どもの貧困の事について4ページ、「令和元年国民生活基礎調査」によると18歳未満の「子どもの貧困率」13.5%で7人に約1人の子ども貧困状態であると。全国のことはいいんだけど、市内の調査はできているのかな。子どもの貧困は東近江ではないだろうって思っていたんだけど、それは甘かったね。そんなことはないだろう。

教育部長

数字としては就学援助という制度がありまして、今千人ぐらいが対象になっていると思います。約一割です。

市長

一割という事は10%、全国よりは低いけれどもゼロではない。その子たちは、例えば学用品も買えないような状況にあるのかな。母子家庭で貧困家庭があるというのはわかるけど。

教育部長

実態はちょっとわからないですけど、この就学援助制度の中には、学用品費も支給をしています。

生活保護の対象となる所得の水準があるんですけど、就学援助の所得要件がその1.2倍だったと思います。それ以下の所得の世帯は対象になっています。

市長

僕は、この経済的発達した国民で、13.5%のこの貧困家庭があるっていうことが信じられない。本当にこの数字は実態を反映しているのかなって。これはもう全国のことだけであって、市のことは書き込めないのね。

**管理監（教育
総務担当）**

3ページから6ページについては全国の状況を書いているページの構成となっています。

市長

ここに市の情報を書き込まないから、先ほどのような指摘が出てくる。全国はどう、県はどう、市はどうって書いてない。読んでいて知りたくなる。ここはトータルとして、問題提起、課題がどう、ここで塊としてまとめるっていう。そこで完結しておかないとまた違うところで触れるから、繰り返されているという指摘が生まれてくる。ちょっとその辺、整理しよう。

あとはもうちょっと絵、写真を考えてほしい。例えば29ページに写真があります。ここは活用だから活用の場面、例えば陸上で走っている選手の絵を入れるっていうことが大事だと思うんですけど、その一方で47ページの「多様なスポーツ施設の充実」の項目に、こんな養成講座の写真はミスマッチを感じる。多様な施設の充実っていうんだから、例えば「能登川のアリーナが完成しました。」「布引スタジアムに電光掲示板を入れました。」など多くのお金がかかっています施設の写真是このページに載せるべきで、リーダー養成講座はさっきのページへ載せるべきではないかなと。それも含めて、このヘッドラインに合っているかどうか、よろしくをお願いします。

全体として、前にも言ったように、三方よしというものがしっかり書いてあるから、これでいいと思うんだけど、あくまでも教育三方よしというのを、標榜していますよと。これをやめようと絶対言う必要はないので。ただ、いつも意識してないといけないのは、近江商人の発祥地である場合、三方よしの発祥地だと自認しています。それで日野商人、八幡商人、水口商人、色々あるその中でも五個荘近江商人がこの原点であるとしっかりと言える。使ってもらえるのは結構だけれども、三方よしってのは結果論で間違いないと思う。近江商人だって、命がけて諸国行脚してものを売りに行って、自分の儲けを第一に考える。一生懸命商売するということで、欲しいものが手に入ると買った人が喜ぶ。買った人がいる、売った人がいる、当然、経済が回るから地域が良くなる。そういう意味で三方よしというのは結果論です。それを世間の人はずごく誤解している。三方よしのために何かをやるというはありえない。三方よしにそんなに耳に心地の良い根拠があるわけではない。教育三方よしというのはともすると間違うからね。そこを踏まえて、三方よしという言葉を使ってほしい。それだけちょっと僕の方からお願いしたく、もう一回リニューアルした基本計画に三方よしを引き続いて使うということであれば、その使う場面をよっぽど考えておかないと、原点はそういう意味があるので、どうぞよろしくをお願いします。認識してくれていると思うけど、こういう場でしっかりと僕が一度、そのことを言ってみたかったです。よろしくをお願いします。以上です。

教育部長

ありがとうございます。予定していました時間になりましたので、皆さん貴重な御意見ありがとうございます。まだまだ御意見あると思うのですが、もう少し策定までには時間がありますので、それぞれ御意見をお寄せいただいたら、また反映させていただきたいと思えます

今後の予定ですが、1月の委員会協議会での協議、2月の全員協議会、第4回策定委員会を開いて、その後パブリックコメントを実施し、年度末の完成に向けて、事務を進めてまいります。

また、先程の担当からの説明のとおり、現行の第1期教育振興基本計画は、総合教育会議で本市の大綱としており、第2期教育振興基本計画も第1期と同様大綱とさせていただきたいと思っております。

それでは、1つ目の「第2期東近江市教育振興基本計画（案）について」につきましては以上で終了させていただきます。

この後、2つ目の協議の準備をさせていただきます。準備が整うまでの間、一旦休憩とさせていただきますと思います。

教育部長

時間となりましたので再開いたします。
協議事項2つ目、「タブレット端末を活用した学習について」に入らせていただきます。
まず、愛東南小学校東條校長先生から御挨拶をいただきます。

愛東南小学校
校長先生

（愛東南小学校東條校長先生挨拶）

教育部長

続きまして、小林教頭先生からICTの活用状況について、御説明させていただきます。小林先生よろしくお祈いします。

愛東南小学校
教頭先生

（愛東南小学校 小林大輔教頭先生説明・・・10分間）

教育部長

ありがとうございました。それでは、授業参観に移らせていただきます。東條校長、小林教頭に案内させていただきます。
（授業参観）

教育部長

お疲れ様でした。
「タブレット端末を活用した学習について」につきまして、学校教育課の平井茂太指導主事が説明をいたします。

学校教育課指
導主事

（指導主事説明）

教育部長

それでは、ここから意見交換の時間とします。
まずは、小林教頭や平井指導主事からの説明、授業の様子を御覧いただいた感想や御意見、御質問等お一人ずつ、いただければと思います。

沖田教育委員

非常に驚きました。初めの会議をやる前にこれを見たら良かったなと思いました。我々が考える授業と全く違っていました。大学の教員養成課程でこういうものを全く使っていないですね。大学へ帰って、先生方が実際、小学校でこういう教育を実践しておられるということをお伝えしたいと思います。大学ではiPad等の端末を持って入ったらだめだという先生もいると思うんですけど、それを積極的に使っていくという発想は、実は我々の世代にはない。大学の教員養成課程の中でもびわこ学院大学は非常に力を入れています、驚きました。こういうものは、もっと積極的に使うべきであって、非常に反省の意味を込めて一緒にやろう、素晴らしいなあという感想を持ちました。

教育部長

ありがとうございます。篠原委員、お願いします。

篠原教育委員

ICTについては、本当に色々工夫や勉強をされて、授業もまだ始まったところなので試行錯誤だと思うので大変だなと感じて、授業を見させてもらって、すごく活用され始めているのを見させてもらったので、ありがたいなと思っています。

私にはわからないので、これから一緒に勉強していきたいなと思うんですけども、一つ心配なのは、国語力をつけるという意味では、タブレットっていうのはひらがなで打てば漢字が出てくるというのがあるので、子どもたちは漢字が読めなくて意味が分からないという文章の読めなささっていうのは、漢字を飛ばして読んでいるから全然意味が分からないっていうことがとても多くて、するとやはり漢字をもっと積極的に勉強していってもらわないと、これから先もっともっと難しくなるんじゃないかなって思うので、そこは心配なところだと感じました。

教育部長

ありがとうございます。青地委員、お願いいたします。

青地教育長職務代理者

ありがとうございました。非常に貴重な体験をさせていただきました。私が現場にいた時はパソコン室、いわゆるコンピューター室があって、そこにその学級みんなで行って、学習後教室に帰ってくる、これだけのスタートだったんですけども、こんなに進んでいると思わなかったんで、今日はびっくりしました。しかもそれを先生方が使いこなして上手に活用されているっていう姿を見てびっくりしました。質問も兼ねてなんですけど、こちらの学校でタブレットを使った授業は、割的にはどのぐらいですか。例えば一年生だったら、何時間ぐらいやっているんでしょうか。先ほども言いましたように、自分の手で文字を書くのがどうしてもそちらに流れますよね。タブレットを使った時間数はわかりますか？

愛東南小学校教頭先生

もちろん学年によっても違うんですけども、今日は特に見ていただけるっていうことで、集めた部分があるんですけども、1日に1時間です。1時間といいましても、まるまる使っているわけではなくて、今も最初の導入で復習をしましょうというので、10分から15分以内ぐらいでタブレットを使っています。その後は横に置きまして、鉛筆とノートを使いながら学習していくという形です。また時々、前のスクリーンにイメージを映しながらの授業に戻って、授業45分の時間のうち、多くても15分ぐらいの時間しか触っている時間はないというのが現状です。頻度が多いですけど、使っている時間は短いです。

青地教育長職務代理者

実はそのことが課題になってくると思うんですけども、東京にいる孫娘が帰ってくる時に持ってきて、自宅学習するんですよ。国語にしても漢字の問題、算数の問題があるんですけども、そのせいではないとは思いますが、視力がものすごく落ちている。正直、今回帰った時にそういう話があります。片方の視力はものすごく落ちていて眼鏡をかけないといけない、みたいなこと言っているんで、帰ってきた時は向こうの山を見ようとか、向こうの雪を見ようとか言っているけど。結局、子どもにとって姿勢とか視力とか、その辺は今後いかに使っていくか、上手にやらないと、違うところに弊害が出てくる可能性もあると感じました。ありがとうございました。

学校教育課指
導主事

ありがとうございます。山本委員、お願いします。

山本教育委員

とにかくびっくりしたというのが最大の感想です。明治の学制が始まって以来の大改革が今ここで行われているのかなと思いました。今までずっと積み上げてあった現場での教育のやり方で生かせる部分と、新たに開発する部分と早急に整えていけないと思いました。現場は大変だろうけど、今のスライドで先生方が研修されていると。みんな試行錯誤の部分もあるんでしょうけど、機械を入れたけど、仕組みが発揮してないと生かせないと思いますので、早急に対応していただけないと大変だなと思います。

全く違うことで思ったのは、タブレットが配布されることによって、パソコン教室がなくなった。パソコン教室はいったいどのようになっているのかな。前半のお話の中の基本計画の中で充実した学校施設を活用するっていう項目がありましたけど、そのパソコン教室がまるまる空いているんだったら高齢者集めてパソコン教室を行ったらいいんじゃないかなと思う。学校だけじゃなくて生涯学習との横の連絡っていうのが出来るのかなと思ったり、すでに古いパソコンは撤去し空き教室になっているのかなと思いました。

愛東南小学校
教頭先生

本校以外のことはちょっとわからないのですが、本校は前のパソコンについてはもう引き取りいただいて、そちらの方にはテーブルだけがあるだけになっています。広い空間がありますので、密を避けるために身体測定等もその部屋を使っていて、部屋としては有効に使わせていただいています。

教育部長

市内どこの学校もそういう状況ですので、パソコン教室は今後使わないで、空けていくという方向です。

教育長お願いします。

教育長

今日、私も直接的にこのタブレットが入ってからの授業は初めてだったんですけども、子どもたちはやはり興味深く積極的に授業に取り組んでくれているなと思いました。タブレットが入った段階で、先生方がどういう形で積極的に使ってもらえるかっていうのは、非常に心配をしていたんですけども、人によって差はあると思っていますけれども、相対的に言うと、私が思っていたよりは数段積極的に使っていただけるようになったと思っています。

去年の夏休み前くらいになると、急激に感染者数が多くなって、その頃には自宅に向けて配信するという事にチャレンジをしてもらっている学校もたくさんありましたし、そういう意味では思っているより学校全体、教職員全体が取り込んで、子どもたちの毎日の学びを、タブレットを活用した形に向けていこうという姿勢は感じられたなと思っています。ただ、おっしゃっていただいている通り、これからは均質化というか、先生方のばらつきをできるだけ整えていく、それと、どういう形で使うのが一番いいのかという部分がやはりまだまだ研究の余地があるのかなと思っていますので、そういったことをしっかり高めていきたいなと思っています。

教育部長	ありがとうございます。副市長、御感想お願いします。
副市長	先程も言いましたが、うちのスポ少の教え子が5～6人いますので、また今度練習の時に聞いてみて、それぞれの状況を情報収集をしたいと思います。以上です。
教育部長	ありがとうございます。市長、お願いします。
市長	<p>世界の潮流にね、日本が乗って行ってしまった。5G時代にまだまだ進化すると思います。ようやく入口に入ったところだという認識があります。ただ、いつも言っているように、科学技術の進歩っていうのは、人間性の喪失と危険性の増大、これは諸刃の剣で、この利便性というのはすごくいいけど、ふたつあってひとつは人間性の喪失につながる。一番心配するのは人間力、人間性、つまりバーチャルリアリティの恐ろしさ、人間としての感性をどうして育てるか。もうひとつはね、物の持っている価値が肌で感じられなくなってしまう。つまり、紙と鉛筆と消しゴムがこのタブレットになるわけだから、指で消せる。本当に鉛筆で書いたら削らなきゃいけないし、書いて消す時に消しゴムを使ったら、その消しゴムのかすができたり、そういうそれに付随する物の持っている本来の価値を理解しないまま、結論としての利便性だけを吸収することによって、そのプロセスも学習だと思うんだけどね。そういったリアリティをどう教えていくのかなっていうところ、それを併用しないといけない。やはり人間性の喪失が一番怖いなど。行き着く先には、人を平気で殺しても、リセットボタン押したら生き返るみたいなね。一時ゲームが本当にピークの時は本当にそう思っていた子どもたちがいたようなんです。今は、それをクリアできたと思うんですよ。もう一つは、企業に対して心配するウイルス感染とサイバー攻撃のような、そういったものに対してきちんとIDとかパスワードを管理してるよね。</p>
	<p>東近江市はインターネットの回線のスピードが一番早い。県下で一番進んでいるということで、これはもっと自慢しようよ。</p> <p>今、タブレットを外に持ち出させているのかな。</p>
愛東南小学校 校長	観察の森とか学校の周りには持って行っていますが、家には持って帰っていないです。
市長	端末にフィルターかけてゲームとか出来ないようになっているのかな。
教育部長	使い方によってはできる場合があります。
市長	<p>それをできないようにした形で家に持って帰るっていうことも考えないと。興味あってもどんどんやれば能力高まるわけなんでね。本来の持っている機能を最大限発揮するような効果的な使い方について、これから先生の中でも課題になってくると思います。でも先生の中にはあてがわれた教材を使いたくないと本音では思っている方もいるかもしれない。でも若手の先生方には早く吸収してもらって、あくまでもツールで文房具だという認識を子ども達に分らせていただきたいな。これは手段であって、感性とか人間力とか、あるいは能力っていうのはもっと別の世界の話だよと、そういったものもやっぱりそれをスポイ</p>

ルしてしまう危険性があるということを認識しつつ、より効果的なグレードアップのツールとして、ますます活用していただけるとありがたいなと思いますね。そんなことを感じながら、けっこうびっくりしました。以上です。ありがとうございました。

教育部長

持ち帰りに関しましては、モデル的に実証実験ということで、試験的に実施をいたしました。

市長

その普及率も滋賀県トップでしょう。例えば、インターネットの利用率だとか、昔からピアノとかパソコンとかステレオとかリール式のテープレコーダーみたいに滋賀県が保有率一番ですよ。豊かなんですよ。可処分所得が多いから子どもに買ってやられるんですよ。家で携帯で遊んでいる時間が気になるなど。僕と教育長も心を痛めている。とにかく学校は使用禁止だよ。持ってくるのもだめ。家でも遊んでいるんじゃないか。家で自分の別のタブレットでゲームばかりするんじゃないかなと、いわゆる役割論としての5Gももちろんついていかないと、国際的に遅れる。だけどその本質は人間が動かすツールであるっていうことを絶えず、先生方が子どもに言い続けていく必要があるのかなっていうことをつくづく感じました。よろしくをお願いします

教育部長

それでは今の委員さんの御意見をふまえて審議員ちょっとコメントをお願いします。

教育審議員
教育研究所所長

今言ってくださった課題については、現場の中ではひしひしと感じているところです。ただ、先ほどおっしゃったように、先生方がどのようにまず使うかということが喫緊の課題でしたので、一学期に先ほどもありましたけれども、市内の教職員全31校を全て回らせていただいて研修をしました。当日は職員室に残る先生もおられますので、約9割の先生方に研修を実施するところまでいきまして、あとはより具体的にさらに市内でどう進めるかということで、各校の核となる先生がICT推進委員会で31人おられます。その委員会を進めつつ、それと、もう一つ心配しましたのは、例えば複数校から中学校に進学する学校があって、A校とB校で差があると、中学校に入った時、子どもたちが困る、指導する先生も困るということで、中学校区でどういう風な取組をやっているか、中学校区のICT推進委員会で情報交換をしました。

それと、一番課題となります学校の中でどのように授業力をアップするための一つとして使うのか、そのことについては正直なところ一朝一夕ではできませんので、しばらく時間をかけてですが、引っ張ってくれるのが先ほど説明ありました研究指定校ということで、今現在、鳴門教育大学の先生に御指導いただきながら、授業力をアップする、そこからの視点で今継続してやっているところです。来年度、教育研究所の方でもその辺りをきちんと力をつけるために、先生方にもそういう風な視点でやっていきたいなというふうに思っていますので、またいろいろ御指導よろしくをお願いします。

教育部長

ありがとうございます。

まだまだ御意見いろいろあると思うんですが、ICTも始まったばかりですので、今後また御議論いただく機会を設けさせていただきたいというふうに思っております。それでは、この件については終結させていただいてよろしいでしょうか。

それでは、最後に会議全体を通しまして、市長からひと言お願いします。

市長

ありがとうございました。今日は、二つの重要なテーマということで、愛東南小学校は非常に建屋がいっぱいあって、非常にクオリティの高い学校だなと思いました。愛東町時代の町長や教育長の思いが集まっている中で、子どもにもクオリティの高さっていうものを感じてもらえるかなと。質の高いというのは、少人数の先程の5年生なんか12人ですよ。そういう少数精鋭でやっているという必要性ですね。これは今30人学級とか言われていますけど、僕の時50人学級ですよ、高校は。12かける4倍です。4倍を一緒に習っていたわけですね。聖徳中学校も当時46人ぐらいでした。一学年で350人ぐらいいました。ずいぶん隔世の感があるなあと感じました。これから個別にタブレットを買って見ていこうと思ったら40人、50人は無理なんです。絶対無理です。少人数学級だから出来るんじゃないですか。これから必要なのは、例えばここはもう小規模校なのでいいんだけど、例えば箕作とか能登川南とかで同じ教育ができるんだろかなっていう心配を感じます。担任の先生はそこまで面倒を見れるのかなというのを、小規模校と大規模校でどうクリアして行くんだろうなあと。だからそのタブレット学習の時間には、アシスタントの先生が必要になってくるかもしれない。だからどうしても人がいる時は副市長に頼んでください。今日は、良い感覚を持っていただいたと思うので5Gの時代には絶対についていけないといけない。日本は世界をリードするぐらいの国だったのが、今は半導体についても、バブルの前までは80%は日本で生産していたのが、今十数パーセント。もう完璧に台湾、韓国、中国に抜かれてしまったからね。競争がその子どもの頃から始まっているということを考えたら、有無を言わずやらないといけない。

それと、学校全体の運営に関して、先生が本当に一生懸命やってらっしゃって、先生の思いが今日感じられましたので、非常に良い総合教育会議だったかなと私は思います。またこういう機会をぜひつくっていただきたいなと思っています。大変ありがとうございます。

教育部長

教育長からも一言お願いします。

教育長

今日は色々なセクションというか、財政担当とかも見に来て欲しいと招待したのですが、来てもらえなくて残念でしたけど、要するに副市長がお金の問題を抱えていただいているという話がありましたけれども、今日現場を見て初めてこの活用というのが大事だということに、あるいは子どもはどのような形で実際に手に持っているのかということを見た上で、その他周辺機器も含めて整えていく必要があるんだろうということを、我々としてもしっかり学んでいく必要があるんだなというふうに思いました。

管理監(校務
支援担当)

今日はコロナの関係で、財政担当の人手が足りないので出られなくなったということですね。

教育長

そんな事もありますけど、やっぱり現場をしっかりと見せてもらうことが大事だなと思いました。どうぞよろしくお願いします。

教育部長

ありがとうございました。皆さんの御協力のおかげで予定通り終わりました。みなさんか

教育部長

ら頂きました御意見を、今後の施策や取組につなげて参りたいと思います。以上をもちまして、令和3年度第2回総合教育会議を閉会致します。
長時間ありがとうございました。

会議終了

午前 11 時 40 分